

みんなで考え みんなで実行 あすの伴づくり

「防災の伴を進める会」 推進大会



甚大な被害をもたらした「西日本豪雨」。伴地区は被災を免れましたが、決して「よそ事」と思っ
てはいません。

この西日本豪雨災害を我が事と受け止め、
一人一人の命を守り合う

「防災の伴」

を地域の人みんなで創っていきましょう・

開催期日 9月2日（日）午前10時から
場 所 沼田公民館

記念講演 「西日本豪雨災害に学ぶ」
講師 広島工業大学環境土木工学科
教授 森脇 武夫先生

主催 伴学区自主防災会連合会
伴学区町内会連合会

防災の伴を進める会

次 第

- ・ 黙 禱
- ・ 主催者あいさつ
秋野 征治
伴学区自主防災会連合会長
- ・ 来賓あいさつ
- ・ 記念講演
森脇 武夫先生
- ・ 大会決議
「『防災の伴づくり』をめざして」
- ・ 閉会あいさつ
水嶋 節郎
伴学区町内会連合会長

会場の廊下に「西日本豪雨災害」
中国新聞写真特報を展示しています。
ぜひご覧ください。

大会決議(案)

「防災の伴づくり」をめざして

- 「何十年と住んでいて、何も起きなかった。こんな災害に遭うとは」。土石流に飲み込まれた自宅を前に立ち尽くす初老の女性。「特別警報の意味も知らなかった。理解していれば家族全員、早く避難させたのに」と失った家族を悼む男性・・・。
- この2カ月の間、新聞やテレビで伝えられる「西日本豪雨」の被災地からの生々しい姿を私たちは決して忘れません。「被災地の痛み、悲しみは自らの身に起きた出来事」。この精神を私たちの心の根底に置いて、「伴学区地域総合防災計画」づくりに取り組む決意をまず表明いたします。
- 私たちの故郷・伴地区は19年前の「6.29」災害をはじめ、歴史書にあらわれる江戸時代以降でも幾度となく大きな水害や山津波に襲われています。いわば「災害の常襲地帯」です。
- 周囲を山に囲まれ、狭い平地に田畑や家並みが立ち並んだ農村から、急激な都市化の波にあらわれて、山麓や谷筋に団地が次々に開発されてきました。その無秩序な開発が土砂災害、洪水などの被害に遭う危険度を年ごとに高めてきたのがこの半世紀であり、今の姿です。
- 特に「異常気象新時代」という新語が意味するように、これまでの経験則では計り知れない大災害の危険が私たちの身に迫っています。この現実を、ここに参集されている皆さまをはじめ、地域の住民こそしっかりと自覚しましょう。そして「自助」自分の身は自分で守る、そして隣近所が助け合う「共助」へと、これから伴学区の住民の一人一人の命を守り、安全で安心して暮らせる「防災の伴づくり」に励む決意をここに表明し、全員の意思をもって大会決議とします。

2018（平成30）年9月2日

伴学区自主防災会連合会

「防災の伴を進める会」

安佐南区内の過去に発生した災害記録

① 沼田地区

『芸藩通志』で「川（大田川・古川・安川などを指す）に沿ふ村落は、時に水溢を患れど、沃土なり」というように、沼田地区の川筋では古くから洪水や土砂災害が度々発生していることが充分うかがえる。

以下は、沼田地区に言い伝えや記録として残る過去の分かる範囲の災害事例を挙げてみる。

1) 中世の災害

沼田地区の下向で元禄 17 年（1704 年）7 月火山が大雨により、山崩れし、その土石流は安川の下向関の入り口付近に流れ出し、安川をも超え下地地区に達するほどの大災害が発生している。

その際、民家の数軒が押し流され、12 人の犠牲者を出したと云うことで、犠牲者の供養のため、『関の地藏尊』を造立し、今日も毎年 8 月には地域の住民がその法要を行っている。



下向地区の『関の地藏尊』

2) 大正の災害

大正 6 年（1917 年）9 月 6 日、伴村一円に大洪水・山津波（土石流）が発生している。（伴国民学校学校沿革誌）

沼田地区にもたらした大雨で、奥畑・大塚・細坂・中畑の各河川が増水・洪水となり、それらが合流する伴村中心部は「常ノ河幅ニ幾倍シテ氾濫」とする洪水によって、田畑・民家・橋梁を押し流し、安村に向かっていくという大きな被害を出す大災害となっている。

3) 昭和の災害

①昭和 3 年 6 月 24 日大雨で、細坂川などが氾濫したと話では聞いているが、この災害で死傷者 35 人が出たという。人的被害から見ても、沼田地区の各河川の洪水や土石流などで大きな被害をもたらす大災害ではなかったかと思われる。

②昭和 20 年 6 月 17 日、大雨で安川流域に発生した山津波（土石流）では死者 6 人、流失家屋 19 戸、家屋崩壊・浸水など大きな災害が発生している。

4) 平成の災害

安佐南区で平成 11 年 6 月 29 日午前 10 時頃から降り始めた雨は、29 日の 11 時～17 時にかけて活発化した梅雨前線の活動により一段と激しさを増し、特に沼田地区では 14 時～15 時の時間雨量 57mm（日雨量 197mm）を計測した。また 23 日の降り始めから 30 日までの総雨量は、沼田地区で 349mm を記録するなど、局地的集中豪雨となった。この集中豪雨により、瀬戸内ハイツでは、大規模な土砂災害が発生し、沼田地区の伴・阿戸・吉山などで犠牲者 2 名、負傷者 4 名、家屋の全壊半壊 34 戸、一部破損 36 戸、床上・床下浸水 156 戸の被害が出た。



写真は瀬戸内ハイツで発生した土石流（左）により犠牲者 1 名を出し全壊半壊 3 戸の家屋（右）